

## 令和元年度第1回子ども読書活動推進会議議事録

|          |                                                                         |
|----------|-------------------------------------------------------------------------|
| 日 時      | 令和元年7月16日（火）10：00～12：00                                                 |
| 場 所      | 福岡市役所 1504 会議室                                                          |
| 議 題      | ・ 福岡市子ども読書活動推進計画（第3次）の進捗状況について<br>・ 第2次福岡市教育振興基本計画施策8読書活動の推進に関する取組みについて |
| 公開・非公開の別 | 公開                                                                      |
| 傍聴人の数    | なし                                                                      |

### 1 開会

事務局挨拶

### 2 委員から活動紹介

各委員・団体の紹介（名簿順）

委員長            短期大学で司書を目指す人たちに指導していたが、3月に退職し、今は非常勤講師をしている。これからは、私たちの経験がそのまま適用できない予測不能な社会になるかもしれない中で子どもたちがしっかり生きていくために、心の健やかな成長と考える力の根っこになる言葉の力を身に付けてほしいと願って、子どもの読書活動に関してできる限りの努力をしていきたい。

委員              メディアも子どもの育ちに非常に関係がある。啓発インストラクター35人で、今の時期は毎日7～8人が小・中学校と高校を回ってメディア啓発をしているが、子どもたちの言葉が貧しい、言葉が育っていないと感じている。小学校低学年と高学年のプログラムでは、メディアを止めて、何か違うことをしようと提案しているが、それが読書につながっていない。無理やり読書と結びつける啓発もしているが、やはりゲーム中心の生活で、本当に危険だと思う。

委員              中学校図書館教育研究会では、4月の総会時に担当の先生が集まり研修をした。小学校は読書活動が盛んなところは盛んだが、中学になると途端に読書量が減っている。何とかしたいと思い、夏休みに図書委員生徒の集まりや担当教諭の研修も行っているが、中学校の読書活動がもっと大きく盛んになる取組みが出来ないか模索中である。

委員 小学校図書館教育研究委員会では小学校の 11 名の担当教諭とともに、子どもたちを本好きにするにはどうしたらよいかや、図書館の授業での活用方法などの研究を月 1 回している。昨年度は百科事典の使い方の研究授業を行った。また、小学校の若い先生の中にはブックトークを知らない先生も多いので、今月初めに学校司書の松本先生に実演していただき、研究を深めたところである。研修・研究活動を通じて、授業での図書館活用を広めていきたい。

委員 平成 17 年度より学校司書をやっており、学校図書館の変わっていく様子を見てきた。子どもたちが自発的に読書を始める 3、4 年生くらいの時期をしっかりとみる必要性を感じている。学習にどの資料を使えばいいかなど先生たちと連携して図書館で働いている。

委員 本高校では 1 年生の朝課外を希望制にし、7 時半から 8 時半までの 0 限をなくしたら、その時間に自然に本を読むようになった。子どもたちは最初からスマホを使っている世代なので、タブレットやスマホで読んでいるようだが、活字で読むため高校生は本を買いなさいと言っている。「頭に入れたものは残るが、他はなくなる」と、自分たちは教わった。どうにかして、子どもたちが本を読む環境をつくろうと思っている。

委員 特別支援教育の課題としては、今年 6 月に読書バリアフリー法が制定され、肢体不自由など障がいのある人たちの読書環境の整備が明示してあるが、障がいという一括りではなく、帰国子女等、日本語を母国語としない人も増えているので、そのような人々を包括して取り組む必要があると思う。読書活動推進には人的整備と施設整備があるが、人的整備としては学校司書の配置は重要である。小・中学校には全校配置されているが、特支は 0 である。2016 年の調査では、100% 配置が島根、鳥取、沖縄県。それ以外の全国平均は 13.3% であるが、低いからと言って福岡市もそれでいいというわけではなく、やはり学校司書の段階的な配置が必要である。また、電子図書等のマルチメディアばかりに注目がいくが、読書活動の推進のため、関係機関とのネットワークづくりや学校組織のあり方についても研究していきたい。

委員 中学生の娘がおり PTA 活動をしているが、小学校では読み聞かせなどで図書室に行っていたのに、中学校になると途端に行く機会が無くなり、図書室は会議でしか使わない状態になっている。子どもに本を読ませるにはどうしたらよいかを先生と PTA で一緒に考えていきたい。スマホなどではなく、本で紙のにおいとかを感じながら読んでほしい。

委員 各区の保健福祉センターで実施される 4 か月健診で、赤ちゃんに絵本を配布し、ブックスタートの話や読み聞かせ、わらべうたを紹介している。年々お母さんの関心が広がってきていると思う。赤ちゃんが生まれて最初に出会う絵本に、お母さんたちは自分が読んでもらった絵本を選び、読んでいるようだ。赤ちゃんおはなし会への流れを、小・中学校へとつなげていけたらと思う。言葉のシャワーや絵本の力を届けたいと活動している。

委員 福岡市学校図書館ボランティアネットワークは平成 20 年に福岡市立小学校でボランティアをしている人たちで横のつながりを持とうと始まった。活動は、6 月～7 月に読み聞かせ初心者研修会、1 月頃に少し経験のある人たちの研修会をしている。昨年度は、「読んでみよう科学の絵本」として交流会や学習会をした。また、生涯学習課と PTA の連携事業「家庭での読み聞かせ講座」ではコーディネーターとして協力、さらに、公民館のスタンバード文庫を利用する親子のための読み聞かせ講座の講師もしている。学校では少しずつ英語の授業が増え、読み聞かせの時間が減らされているとボランティアより聞いている。

委員 福岡おはなしの会は、総合図書館で毎週日曜日の幼児向けと小学生向けのおはなし会、毎月 1 回の赤ちゃんと保護者向けのおはなしの会を中心とした活動をしている。夏休みの 7 月 28 日には、「一日おはなし会」として午前 2 回、午後 4 回のおはなし会をする予定である。また、総合図書館主催の絵本の読み聞かせとストーリーテリングのボランティア養成講座への協力として、実演と実習の講師をしている。モデル児童図書リスト作成のための推薦図書の選定にも協力している。福岡市子ども読書フォーラムには第 1 回目から参加しており、メンバー一同とても楽しみにしている。

委員 活動を始めて 13 年になる。それまでも公民館に本はあったが、未整備だったものを整理し、ボランティア 13 名で毎週土曜 10～12 時に文庫を開いている。

最近利用者が少なくなったので、公民館の幼児教育講座で「いないいないばあ」などの大型絵本で読み聞かせをしているが、お母さん方にも少しずつ理解を得ており、参加者が増えていっていると思う。

委員 総合図書館の団体貸出では、幼稚園や小学校、公民館に本を貸し出す業務をしている。

今年度からは、地域における読書活動の支援として、公民館文庫などの地域文庫を訪問し、調査、情報収集を行っている。あとは、図書館有志の YA(ヤングアダルト)の勉強会で、YA 世代への読書活動促進のため、TRPG(テーブルトーク・ロール・プレイング・ゲーム)を行っており、読書へつながる YA 世代へ働きかけを行っている。

委員 飯原公民館では毎月 1 回本の読み聞かせを行っており、留守家庭子ども会の子が参加している。母子巡回健康相談の折にスタンバード文庫を紹介し、本の読み聞かせをしているが、親が公民館の本を借りていく様子をだんだん目にするようになった。

委員 九州各県から本屋が集まる「九州選書市」を福岡市で開催しているが、その時に JPIC(出版文化産業振興財団)に依頼し、本屋でも読み聞かせができる体制を作りたいと思っている。従業員が会議室等で読み聞かせができるようになればと思う。また、みんなには外出時に看板を読みなさいと言っている。本屋は大学の教科書も取り扱っているため、採用面接時に英語を読ませているが、雑誌の表紙にある英語は読めるのに、英文のイソップ物

語は 1 ページも読めない人がほとんど。労働力不足なので外国人を雇用したいが、日本語を話せても文字が読めないと、本屋としては雇えずに苦勞している。

委員 幼稚園児はとにかく絵本が好きでいつもファンタジーの世界におり、楽しいことを考えている。読書活動推進についての情報は集めるが、あとはそれぞれの園のやり方で進めている。研修会に外部講師を呼び、どのように本を活用したらよいのか、環境づくりはどうしたらよいのか等、若い先生と勉強している。

委員 ほとんどの子どもたちは 0 歳で初めて絵本に出会う。大人になっても活字が読める子に育てたいという保育園の方針で、毎週水曜日に絵本を貸出していたが、今年度は建替工事のためできていない。保育士や子どもたちは日常的に本をたくさん読んでいるが、家庭ではどうかと思っていたので、事前にどんな絵本が好きかを保護者に尋ね、その本を保育参観等で、抜き打ちで「読める人いますか」と聞くと、お父さんたちが手を挙げて読んでくれる。保育園行事のお土産として、今まではちょっとしたおもちゃをあげていたが、今年度は年齢に応じたミニ絵本に変更の予定。なかなかよい絵本が見つからないが、バッグに入れておいて、いつでも読める環境を作りたい。

### 3 報告

#### (1) 福岡市子ども読書活動推進計画（第 3 次）の進捗状況について

資料に基づき、事務局説明

委員 学校司書の効果検証で、平成 30 年 11 月の読書量調査では、小学校はおおむね伸びているが、中学校は全国平均を下回っているとある。その結果をどう分析しているか。どのような理由と考えているか。

委員 中学校の読書量は毎年課題としてあがっている。要因は様々と思うが、一つにスマホやタブレットを小学校高学年から中学校頃で利用し始めるのがある。また、中学生になるとページ数の多い本を読むようになるため、貸出しの回数や冊数が少なくなるのではとのアンケート結果も聞く。さらに、中学校では学校行事や部活等の関係で、朝読書の時間や昼休みの図書館開館日が少ないなど、様々な原因が考えられる。

委員 今の理由に対してどのような手立てをとるのか、どうしたら読書量が増えると思うか。また 11 月に調査をしても、この問題に対する手だてがなければ変わらないと思う。大学の専門家にすすめ本を紹介してもらうことも考えているようだが、抜本的な解決にはならないのでは。

委員 今の要因一つ一つに抜本的な対策を講じていくのは難しいが、学校図書館の活性化が中

学生の読書離れに歯止めをかける一つの手立てだと思う。メディア利用に関しても、スマホで読むことと本で直接活字を読むことの違いを、機会あるごとに学校長へ説明している。中学校の事情もあると思うが、できるだけ学校図書館の活性化と朝読書の実施を校長会等をお願いすることを考えている。

委員 学校司書の問題は大きいと思う。月2回の訪問で学校図書館を活性化してくれと言われても現実的に厳しく、司書教諭にしてほしくても、ご存知のとおり忙しい。学校図書館の活性化には、学校司書の配置を拡充する必要があると思う。また、小学生の読書リーダー養成講座があるが、中学生にもぜひやってほしい。図書委員会の活動等がもっと活発にできるような取組みをしてほしい。

委員 平成17年から学校司書をしているが、当時はまだ15名で、30校の小学校にしか行っていなかった。年間、小学校65日、中学校65日の配置時期に中学校でヤングアダルト、ちょうど思春期の子どもたちと関わったが、彼らは力があるし、大人の会話もできるので、生徒会を中心に学校司書と一緒にいろいろなことができた。昼休みも忙しく図書館に来ることができない司書教諭の代わりに学校司書が図書委員や生徒会と関わりを持ち、図書館の活用を図ればよいのではないか。今年度、学校司書が全校配置となり、毎年学校に司書がいるのはとてもいいが、1人4～5校担当しなければならず、まだまだ足りないと思っている。今後も学校司書を増やす取組みをしてほしい。

委員長 関連で、総合図書館でヤングアダルトの担当から何か。

委員 子どもたち同士の本の紹介はとても大きい。ビブリオバトルをやると、紹介された本を率先して借りている。また、前回の会議でも話が出たが、文豪の名前を持つキャラクター同士が戦うアニメがあり、その登場人物である太宰治のキャラクターが表紙に印刷された、太宰治の「人間失格」の本が出版されており、その本があると、率先して借りていく。今子どもたちが何を求めているかを把握して見合った資料をそろえていくことは重要だと思う。

委員長 北九州市は小学校高学年と中学生を対象に子ども司書講座をしているが、そういったやり方もある。

委員 経験のある学校司書は、数校を担当していても図書館を手早く整理して子どもたちと関わることもできることもあるが、難しい。新人司書は、1校をやりあげるにも時間がかかり、終わったと思ったら、次の年にはもう別の学校に行かなければならない。当初は、子どもたちに本を手渡したいという気持ちで学校司書になっているのに、子どもに関われずだんだん辛くなり、それが原因でやめてしまう人もいると聞いた。このままで

は腰を据えて子どもたちに本を紹介したり、啓発活動をしたりすることは難しいのではないかと。全校配置はいいことなので、予算の問題もあろうが、本気で子どもたちのことを考えるならば、もう少し学校司書の配置について考えていただきたい。

#### 4 協議

##### (2) 第2次福岡市教育振興基本計画 施策8読書活動の推進に関する取組について

資料に基づき、事務局説明

委員 現在、東光小学校で勤務しているが、図書室が3つあり、学習と読書をつなげることを学校の研究テーマとしているので、とても読書活動が盛んである。児童数は250人弱なのに、年間5万冊読んでいる。以前は、文学関係の資料が多かったが、科学の本、調べ学習、学習センターの本を入れた。物語よりもノンフィクションの世界や科学の本、図鑑が好きな子どもはとて多い。また、東光小は3、4年生で本から離れていく子がない。子どもたちの興味関心に沿うものを、一人一人に手渡してきたが、中でも、特別支援学級の子の読み方は素晴らしく、興味ある分野の本を熱心に読む子がいる。そういう子には中学校の資料を貸すなど、子どもたちのニーズに即したものの、また、学校の授業でどういった本が必要なのか、いつも資料を見ている私たち学校司書が手渡すことができると思っている。

副委員長 今後の方向性として、学校図書館活性化の体制強化がたくさん書いてあるが、予算措置がないと難しいと思う。全校一斉実施では難しいので、例えばモデル校2～3校で効果を検証してはいかがか。また、司書は養護の先生の役割も兼ねていると思っており、そこから別の効果も出てくるような気がするので、是非モデル校を作ること検討していただければと思う。

委員長 学校図書館は第二の保健室とよく言われる。何年か前に、鎌倉の図書館で学校に行くのが嫌だったら図書館においでと発信していた。今、中学生の不登校が非常に多い。学校に行きづらい、教室に入りづらい子どもたちのために、いつも図書館が開いていれば、そこで過ごすこともできるのでは。実際に、モデルの数校から始め、最終的に全ての小学校に司書が配置されたという例もある。小さな町だったからできたのかもしれないが、小中高の子どもたちの読書をもっと盛んにするには、専門的に関わる人が欠かせないと思う。

児童生徒は学校だけで生活しているのではないので、地域でも子どもたちがもっと本に親しむためにはどうしたらよいか、意見はないか。

委員 団体貸出等のため、地域を訪問しているが、公民館等では、頭が上がらないくらい文庫活動に尽力されているところがある。福岡市の場合は、全国的に珍しく小学校単位で

公民館が設置されており、各校区に図書館は難しいが、各公民館を子どもの読書活動の拠点とする体制を作り、公民館が本を貸し出すことで、子どもたちが読書に親しめたらいいと思う。小学校と公民館の連携を強くしていくことが重要。

委員            子どもたちが暮らしている地域の中に公民館の図書室があることは大切である。子どもたちは自分の足で行けるとところに本がなければ、親に連れて行ってもらえない。そういう意味でも、小中高と公民館が連携するのは、これから取り組んでいきたいことだと思う。

委員            公民館では、毎週火曜日の 16 時から 17 時までを寺子屋と呼び、何でもしてよい場を提供しており、子どもたちは宿題をしたり本を読んだり自由に使っている。また、小学校では、1 年生や 3 年生が公民館見学に来るので、公民館に図書室があることを知ってもらっている。今後は、本を入れ替えたり、もっと気軽に借りられるようにしたりして、今以上に本に親しんでもらいたい。

委員長            学校ボランティアと地域文庫の両方の立場からはどうか。

委員            警固公民館等では、子どもは学校から一旦家に帰って公民館に来て宿題をしたり本を読んだりしていると聞く。私は家庭文庫を月に 2 回開いているが、子どもの行き帰りの安全面が課題である。不審者情報が出た時や、17 時を過ぎると暗くなる冬季には、お迎えに来てもらうかみんなで一緒に帰ることを心掛けている。

最近、学校での読み聞かせの時間が減ったとよく聞く。教育振興基本計画で読書活動推進を重点項目にしていることは心強いが、しっかり聞いて楽しい読書体験をしていないと子どもたちは本を読めるようにならないと思う。学校司書と司書教諭を中心に、読書ボランティアも頑張っていくことが必要と考えている。アメリカの実態調査によると、8～9 歳を過ぎると家庭での読み聞かせをあまりやらなくなり、自分で本を読むことから離れて本を読む子と読まない子の差が広がっていくという結果が出たそうだ。家庭でも学校でも、しっかり耳から聞く読書体験と、いろいろな本の紹介が必要だと思う。

委員長            やはり小さい頃からの積み重ねが大きいと思う。ちょうど小学校中学年頃から子どもたちの読書力にばらつきが出てくる。5 年生でもほとんど大人と同じように読める子と、親の助けがないと読めない子がいる。私たち大人は、読書というとすぐ文学的な作品を考えるが、子どもたちは自然科学が好きとか社会的なことが好きとかいろんな興味を持っており、一般的な発達段階だけではなくそれぞれの発達段階や読書力のレベルに合わせて興味に合う本をうまく提供していくことで、9 歳頃からの読書離れを防ぐことができると思う。学校にきちんと専門家がいることと家庭でも関心を持ってもらうことが不可欠だ。

- 委員 学校図書館の予算は、生徒数×一人当たりの金額という算定方法なのか。
- 委員 図書の予算は学校予算の中で決めていく。また、蔵書冊数には標準冊数があり、クラス数によって変わってくる。毎年各学校の標準冊数達成度を計るが、年によって 90～100%と前後する。予算を図書館にどれだけ使うかは、ほぼ本をどれだけ買うかによるが、学校によって違う。
- 委員 図書館予算では、本だけでなく書架や備品を買うこともある。実績で決まるのか。
- 委員 書架が足りないなどは学校予算から付けるし、整備予算の中で足りない場合は予算要求をする。実績によって変わることはない。
- 委員 予算が足りないのは県も市も同じ。司書が足りないのは人件費が足りないということ。予算は誰かが取らないといけない。また、福岡検定のような司書検定試験があれば、プライドを持ってできる。JPIC(出版文化産業振興団体)は民間で全国にあるのですぐできる。
- 委員長 福岡市も資格ではないが、総合図書館が実施するボランティア養成講座の受講者が活躍している。また、予算獲得を頑張っていたきたい。
- 委員 学校予算については担当課を中心に獲得に向けて努力している。限られた予算の中で優先順位をつけるので、努力しても報われないこともある。
- 施策 8 の読書活動の推進における今後の方向性のキーワードは、記載のとおり、「校長の方針」にあると思う。学校司書も、校長のビジョンのあり様によってかなりの効果があげられるし、そうでなければ、配置されても苦しむことが多いのではないかと思う。私は学校組織の改編を推進しているが、本校には学校図書館部という分掌がないので、学校長の経営方針に読書活動を推進するというビジョンを明示している。教育委員会が何をしてくれるのかという姿勢ではなく、自分の学校の課題を解決するための自助努力が必要である。
- 委員長 過去、全国 SLA (School Library Association 公益社団法人 全国学校図書館協議会) の表彰を受けた学校は、図書館を学校教育の中心に据える校長の考えのもとで運営されている。それまでも司書はいたが、そのような校長が来たことで活動が活発になったという事例があった。
- 委員 以前、予算や学校司書、新しい本がほしいと言ったら、今できることを考えないといけないと怒られたことがある。校長は、学校経営の中心に図書館を使うことや司書教諭

をいかに育てるかが大事になってくると思う。小学校図書館教育研究委員会では、担当の先生は熱心に研究しており、福岡市全体に広げたい思いがすごく強い。研究委員会を通して、本っていいものだとし市に発信していくことが一番大事と感じている。

委員長            司書教諭の授業の時数軽減があれば、子どもたちの読書活動や授業で図書館を積極的に使うことが進んでいくように思う。

委員              その通りである。司書教諭が熱心な学校は、私たちも仕事がしやすい。小学校へは1校当たり月平均3日、中学校では1校当たり月平均1.5日、いずれも4時間しか学校に行けないので、先生とコンタクトが取りにくいのが、司書教諭が話をしてくれていると私たち司書は働きやすい。子どもたちも変わってくるのではないかと。校長や司書教諭、学校司書だけではなく、他の先生にも子どもの読書に興味を持ってもらえれば、この計画目標に近づき、達成できるのではと思う。

委員              校長のビジョンによって学校での読書活動やボランティア活動がどうなるか決まってしまう。私が関わっている平尾小学校は、各学年に一人図書担当の先生がおり、その中から、ボランティアの取りまとめや研修会を担当する先生と、本の紹介を兼ねたおはなし会を担当する先生を決めている。私はコーディネーターとして校長先生とも話をするが、その2人の先生が中心になっていろいろなことを進めてくれるので、どの学校もそのような体制だったらいいと思う。また、研修を行う学年初めの時期に、司書教諭の授業時数が軽減されれば、先生方もボランティアといろいろ話ができると思う。

委員              学校司書に関しては様々な課題があると承知している。担当が現場に足を運び、声をつぶさに聞くようにしている。今年度、この体制になり、当然いろんなハレーションもあったかと思うが、課題にしっかり向き合い、戦略的にやれることをやっていかねばと前向きな気持ちでいることを知っておいていただきたい。子ども読書活動の推進が第2次教育振興基本計画の柱となっているが、福岡教育大学の川口先生の分析では、読書と学力との相関は確かにあり、また、統計的には、未就学時に言葉をどれだけ浴びたかが中学生までの学力に影響してくるのではとされている。未就学期の言葉のシャワーは読み聞かせが主となると思うが、それを浴びなかった子どもたちに対して小学校低学年ではどうするのか、高学年では、中学校では、どのような読書活動を展開していくかを総合的に考えていかないといけない。校長の学校経営が大きく影響するので、それを学校指導課がどう啓発していけるかを考えたい。

委員長            さまざまな視点からのご意見をどうもありがとうございました。  
皆様からのご提案ご意見を参考に、福岡市の子ども読書活動が推進できるよう、行政はもちろん、私たち委員も取り組んでいきたいと思う。